

受入交換留学生及び留学生別科留学生を対象とした ニーズ及び実態調査の報告

A survey of international students of exchange program and preparatory program: learners' needs and learning situation

福田 えり・小松 知子
FUKUDA Eri・KOMATSU Tomoko

キーワード

[ニーズ調査] needs survey・[交換留学生] international student of exchange program
[別科留学生] international student of preparatory program
[プログラム開発] program development・[IR] Institutional Research

I はじめに

近年、高等教育の教育質保証、そのための教育改善の必要性が広く認識されつつある。その実践的改善としてFD (Faculty Development)・SD (Staff Development)、AL (Active Learning)、IR (Institutional Research) 等が注目されている。

日本私立大学協会附置私学高等教育研究所による「IRに関する研究」プロジェクトの報告では、IRは、「個別大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用することが具体的な活動内容である。IRの利用の方法によっては、各大学での内部質保証システムとしても機能する」(山田他 2011)と定義され、教育改善と質保証の基盤となるものと捉えている。その上で、実際には、現状評価は教員個人の主観や経験値に基づいている場合が多く、「IRとはこうした主観や経験にもとづく教育評価を客観的なデータにもとづく現状評価文化に変えていく基盤とみることができる」(同上 2011)とし、改革のツールそのものであることが指摘されている。IRが今日の大学における教育改善に不可欠なものであることは論をまたない。

龍谷大学では、2015年の学部組織改編に伴うグローバル化推進計画により、2020年に向けて受入留学生数の拡大を目標に掲げ、体制整備を進めている¹⁾。その一環として、同年4月に、進学希望私費留学生(以下、別科生)の教育を行う留学生別科プログラムを改編し、従来そこで受け入れていた受入交換留学生(以下、交換生)を対象とした新たな日本語プログラム Japanese Experience Program in Kyoto (以下、JEP)をスタートさせた。

プログラムの再構築にあたっては、ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment, 以下、CEFR)及びJF日本語教育スタンダード(以下、JFS)を参考にした。そして継続的なプログラム改善の

ためのPDCAサイクルを柱に、学内「2015及び2016FD自己応募プロジェクト」（小松他2016、2017）としてセミナーや研修を開催し、関係教職員への啓発、共有を図った（小松・福田2016、奥村2017）。そして同時に、IRの一環として、学生や協定校へのニーズ及び実態調査を実施した。本稿は、その中の交換生及び別科生に対するニーズ調査の報告である。

Ⅱ ニーズ調査報告

調査対象は、原則的に海外の交換協定校において日本語をすでに学び留学する交換生と、日本の大学・大学院進学を目指す別科生である。調査の当初の目的は、両者のニーズの違いを把握し、プログラム開発に反映させることであった。しかし、プログラム開始後、CEFRを参照した自己評価に対する学生の意識やプログラムに対する評価など、より多面的に学生の実態を把握する必要性を感じたことから、随時変更を加えてきた。

本章では、まず、JEP開始前の2014年度前期より2017年度後期まで7回実施した調査の概要を示し、次いで、「日本語学習動機」「自己評価」「龍大を留学先に選ぶ理由」「プログラム評価」の4項目の詳細を報告する。

1 調査の概要

まず、ニーズ調査の概要を説明する。Webアンケート形式を用いることとし²、学期の終わりのホームルームの時間に、担当教員による指示のもと、無記名で答えてもらうこととした。Webアンケートの使用言語は日本語であるが、紙媒体で英語、中国語の質問紙を用意し、日本語での理解に不安がある場合には参照してもらった。

アンケートは少しずつ改訂しながら実施しているが、各学期の分析結果の比較を行うために、おおまかな構成は同じにしている。2017年度を例にとると、設問は、日本語学習に関するものが3問、日本語能力と日本語使用に関するものが4問、日本語プログラムと学部の授業に関する

表1 アンケートの構成（2017年度後期を例に）

日本語学習	・日本語学習動機 ・授業タイプの嗜好性
日本語能力と日本語使用	・「聞く」「読む」「話す（やりとり）」「話す（表現する）」「書く」をCEFR 6レベルで自己評価 ・自己評価の意義理解 ・17のコミュニケーション場面（私的、公的、教育、仕事場面）での言語使用実態（日本語、英語、母語）
日本語プログラム 学部授業	・留学先選択理由 ・日本語プログラム評価とその理由 ・学部授業履修上の困難点
基本情報	性別、出身、母語、母語以外の外国語、日本滞在年数、主専攻、在籍クラス、先学期の在籍有無

るものが6問の計13問からなり、最後に学生の性別、出身、専攻や日本滞在歴など基本情報に関する設問が並ぶ。

2 結果の概要

アンケート結果の報告に先立って、JEP及び別科のレベル構成を以下に示す（表2参照）。2014年度後期はJEP開始前だったため、旧体制のクラス名となっているが、2015年度以降は、表2のようにCEFRのレベルを指標としたクラス分けが行われている。開講クラス数は、別科は3クラス、JEPは5クラスでスタートしたが、2016年後期にJEPは、学生数が急増したため、6クラス開講され、現在に至っている。学期開始前のプレースメントテストにより学生のレベルを判定し、開講クラスレベルを決定する。別科で開講されなかったレベルの学生がいた場合は、当該レベルのJEP授業の受講を許可することもある。

表2 JEP及び別科レベル構成表

CEFR	JEP	別科
B2以上	JEP6	別科6
B1.2	JEP5	別科5
B1.1	JEP4	別科4
A2.2	JEP3	別科3
A2.1	JEP2	
A1以下	JEP1	

以下、アンケート結果のうち有効回答数と回答者の属性を簡単に報告する（表3参照）。有効回答は各学期によってばらつきがあるが、JEP6の学生の回答数が少ないのは、上級レベルになると日本語プログラムを履修せず、学部の授業を履修して単位をとる学生も多く、調査に対するインセンティブが低いことが主な要因と考えられる。男女の割合は女性の方が圧倒的に多い。新規生／継続生の別は、アンケート実施の前の学期に龍谷大学に在籍していたか否かで数字をとっているが、本校では後期9月に来日する学生が多い傾向にある。

出身は中国がもっとも多く、次いで韓国、最近では台湾勢が増えており、タイ、ベトナムと続く。中国人留学生の約半数は別科生で、別科生全体の過半数を占めている。他方、交換協定を結んでいる学校は、2017年7月現在、30か国93校あり、交換生の国籍は多様である。近年の傾向としては、中国や台湾など日本留学希望者が多い国で、留学期間を1年でなく半年とする大学も増えている。

表3 留学生の属性

分類		2014後期		2015前期		2015後期		2016前期		2016後期		2017前期		2017後期		
実施時期		2015年1月		2015年7月		2016年1月		2016年7月		2017年1月		2017年7月		2018年1月		
有効回答数		47		58		65		66		72		67		88		
性別	男	16		18		21		14		18		25		31		
	女	31		40		44		52		54		42		57		
レベル	JEP1	2B	5	42	4	46	4	45	0	55	7	46	5	53	JEP2	4
	JEP2	2A	6		1		1		5		4		7		JEP3	12
	JEP3	3	8		5		13		7		13		12		JEP4A	11
	JEP4	4B	5		12		8		9		9		10		JEP4B	9
	JEP5	4A	6		6		12		9		13		8		JEP5	12
	JEP6	5	10		14		8		15		9		4		JEP6	5
別科3	6	4	16	3	19	4	21	6	17	6	21	3	35	7		
	別科4	JAS		3		5		10		8		4		14	14	
	別科5／6			8		5		7		7		4		14		
新規／継続	新規生	NA		NA		NA		33		42		22		52		
	継続生	NA		NA		NA		33		30		45		36		
出身	中国	16		21		19		18		20		20		25		
	韓国	2		4		7		9		10		6		5		
	台湾	4		5		5		4		5		6		18		
	タイ	2		3		5		5		5		6		6		
	ベトナム	2		2		2		2		3		2		5		
	イギリス	3		1		6		3		2		5		5		
	オーストラリア	0		4		2		2		2		0		5		
	カナダ	0		1		1		0		2		2		4		
	ドイツ	2		3		3		2		1		2		2		
	フィンランド	2		2		0		1		4		3		0		
	スペイン	2		3		2		0		4		2		1		
	スロバキア	2		1		1		0		3		1		2		
	アメリカ	0		0		3		2		0		0		2		
	フランス	2		2		2		1		2		2		1		
	ウクライナ	2		2		2		2		1		0		1		
	ギリシャ	0		0		0		0		1		0		0		
	ロシア	2		1		1		0		1		0		1		
	マレーシア	0		0		0		0		1		0		0		
	ベルー	0		0		0		0		1		1		0		
	ノルウェー	0		0		0		0		1		0		0		
	香港	2		1		0		0		1		1		1		
	シンガポール	0		0		0		2		0		0		0		
	スロヴェニア	0		0		0		1		0		0		0		
	モルドバ	0		0		1		1		0		0		0		
	日本	0		0		1		2		0		1		0		
	デンマーク	0		1		0		2		0		1		0		
	メキシコ	0		0		2		2		0		0		1		
	オランダ	0		0		0		1		0		0		0		
	ポーランド	1		1		0		0		0		0		0		
	エストニア	1		0		0		0		0		0		0		
	チュニジア	0		0		0		0		0		1		0		
	コロンビア	0		0		0		0		0		0		1		

留学生の専攻は、表4のとおり、日本語・日本文学がもっとも多く、ついで言語・文化となっている。経済学部や経営学部、そして理工系の学生も一定数在籍しており、これらの学生は、日本語をあくまでもツールとして学んでいることがわかる。

表4 留学生の主専攻

	2014後期	2015前期	2015後期	2016前期	2016後期	2017前期	2017後期
日本語・日本文学	16	22	26	26	33	28	32
言語・文化	6	6	5	13	9	10	8
アジア研究	3	6	5	3	0	5	5
歴史	3	2	2	2	0	1	2
政治	1	0	1	1	1	2	2
経済	4	3	3	2	8	4	7
経営	0	6	3	4	6	2	6
社会	0	2	1	1	2	2	2
教育	2	2	2	3	0	2	1
法律	1	0	1	0	0	0	1
芸術	2	1	1	3	1	0	1
理工学	2	3	4	3	4	3	6
仏教	0	0	1	0	2	0	0
宗教	0	0	0	0	1	0	1
その他	7	5	5	8	5	7	14

Ⅲ 分析と考察

アンケート分析結果について、いくつか要点を絞って報告する。

1 日本語学習動機

日本語の学習動機の設問では、「日本語の勉強が楽しいから」「日本の社会や文化に興味があるから」という非常に自発的な動機のほか、「日本人と日本語で会話したいから」「小説や映画、アニメやマンガなど日本語で理解したいから」という日本語使用を意識したもの、「日本の大学、大学院に進学したいから」「将来、日本に関係のある仕事がしたいから」という将来を見据えたもの、さらには「日本語ができるとカッコイイと思うから」という他者評価を意識した外発的な動機づけや、動機づけの低い「なんとなく」という選択肢を用意した。2014年度後期と2015年度前期のアンケートでは、「もっともあてはまるものを3つ選び、順位づけしてもらう」回答方式であったが、2015年度後期以降は、学習動機をより絞りこんで把握するために、「もっともあてはまるものをひとつ選んでもらう」方式をとっている。

JEP、別科のそれぞれで回答の多かった上位3項目³を年度別に示したものが図1及び2で

ある。JEPで上位となった日本語学習動機は、「日本に関係のある仕事をしたい」、「日本の社会や文化に興味がある」で、3位に「小説や映画、アニメやマンガを日本語で理解したいから」と続くが、それとほぼ同数で「日本語の勉強が楽しいから」「日本人で日本語と会話したいから」が並んでいる。それに比して別科では、「日本の大学、大学院に進学したい」がもっとも多く、次いで「日本に関係のある仕事をしたい」「日本の社会や文化に興味がある」となる。別科では当然ながら、日本の大学や大学院に進学したいという明確かつ目の目標を抱いている学生が多いことがわかる。

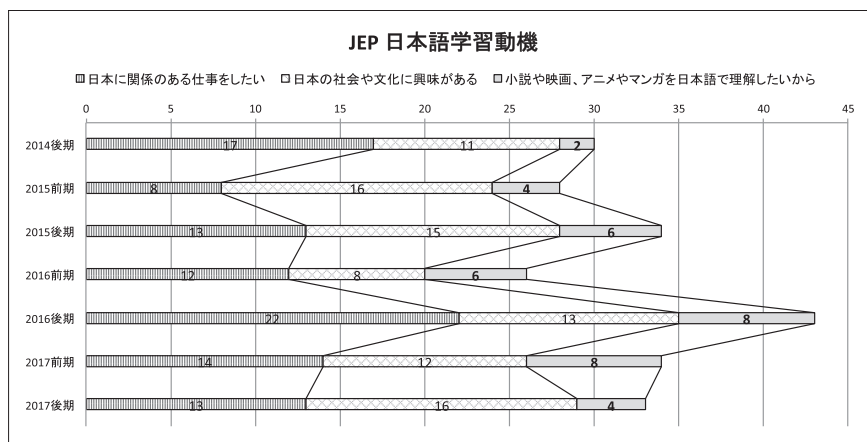


図1 交換生の日本語学習動機

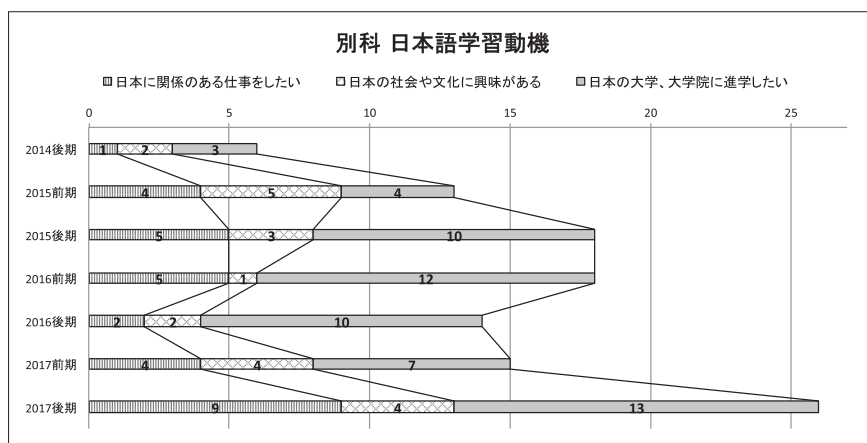


図2 別科生の日本語学習動機

将来日本と関係する仕事をしたいという学生ニーズを受けて、JEP5、6（上級クラス）でビジネス日本語コースを開講することになったが、別科でも近年、自国の大学を卒業し、日本での就職を視野に日本語力アップのために入学する学生が増えており、JEPでも別科でも、将来の日本語使用という長期的なビジョンを持ちながら日本語を学ぶ学生が多いことが見て取れ

る。さらに、JEPの場合は日本語初級者も回答者に含まれるため、日本語を習い始めたきっかけとなるような回答を選択する傾向にあるが、JEP上級レベルや別科では、日本語の学習継続理由を選ぶ学生が多く、将来の目標が動機につながるケースが多いのではないかと考えられる。

2 自己評価の意義理解

龍谷大学日本語プログラムでは、自己評価チェックリストを用いて、学生が自らのパフォーマンスをふりかえる機会を設けている。本プログラムが自己評価を採用する理由は、CEFRの理念にある「自律的な学習者」の育成を目標にかかげているためである（小松・福田2016）。「自律的な学習」とはすなわち、学習者自身が、目標を立てたり、自分にあった学習計画を考えたり、学習した内容を評価したり、学習活動を客観的な視点でモニタリングしたりすることであり、教員は学習者の主体的な学びを支援する存在であることが求められている。具体的に、講師は、学習目標を学習者と共有して意識化させるとともに、自己評価チェックリストを導入し、学期のはじめと終わり、コースによっては活動の前後に「どのくらいできるか」を自己評価する機会を提供する。（詳細は、同上2016参照）

自己評価を留学生がどのように受け止めているかを把握するため、2015年度より自己評価に関する設問を設け、「自分の能力がわかるようになる」「学習の進み具合がわかるようになる」「学習目標がわかるようになる」という3つの効果について聞いてみた。さらに、2016年度の調査からは、「自己評価するのは簡単か」という点についても、データを集めることとした。

図3～6は、その結果をまとめたものである。「とてもそう思う」「そう思う」の合計件数を「そう思う」とし、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計件数を「そう思わない」としてグラフ化した。アンケート実施時期によって多少のばらつきはあるものの、学期を重ねるごとに「そう思う」の割合が増える傾向にある。この理由として考えられるのは、2015年度前期のアンケート結果を講師にフィードバックして改善を求めたことである。ただ自己評価を「やってもらう」のではなく、「なぜ自己評価をやるのか」という目的と、「自己評価をやることでどのようないいことがあるのか」という効果を学生に説明することを講師が心がけるようになり、学生にもその意義が浸透していったことが考えられる。また、すべてのコースで自己評価を扱うようになり、学生自身が慣れて自己評価の意味を実感してきたのではないかと推察される。

一方で、自己評価が簡単かどうかについては、難しいと感じる学生も少なくない（図6参照）。特に上級レベルで「簡単ではない」と感じる学生が多いことを考え合わせると、より高度な、複雑化する言語行動において、ひとことで「できる」とは評価しにくいことが考えられる。また、コースの前後で自己評価をしてもらうと、学期前の評価より学期後の方を低く評価するケースが少なからずあるが、これは実際に授業中に活動してみると自分が思ったほどできていなかったことに気づくことが理由だといえる。メタ認知的な視点で、客観的な評価基準に沿って自分のパフォーマンスを評価することの難しさが窺える。

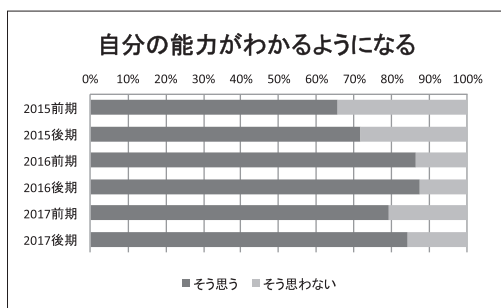


図3 自己評価に対する評価（自分の能力）

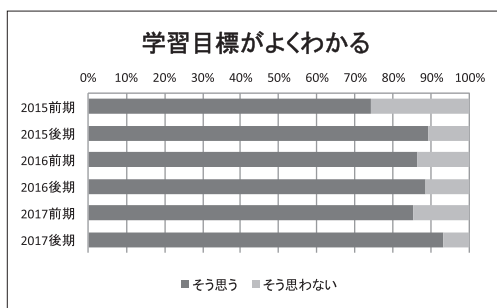


図4 自己評価に対する評価（学習目標）

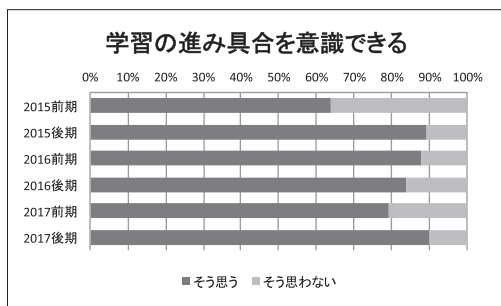


図5 自己評価に対する評価（学習の進み具合）

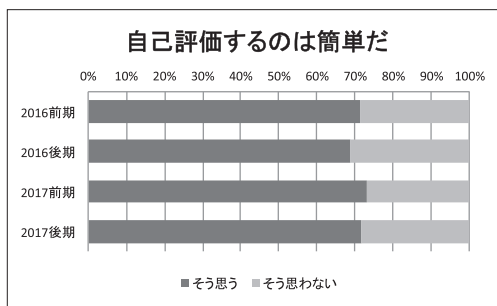


図6 自己評価に対する評価（難易）

3 留学先選択理由

複数ある日本の協定校の中から留学先としてなぜ龍谷大学を選んだかについて尋ねたところ、結果は図7のとおりとなった。もっとも多いのは「京都にあるから」で、どの学期も30名前後の学生が留学先の選択理由に挙げている。京都の知名度と歴史ある街としての魅力が海外の日本語学習者に浸透し、留学先選択の大きな要因になっていることがわかる。次いで「先輩にすすめられたから」「先生にすすめられたから」となり、龍大への留学経験者や日本語担当教員

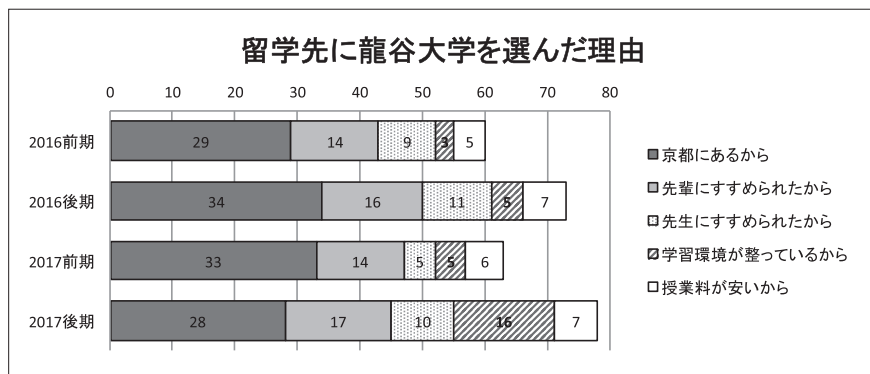


図7 留学先選択理由

から具体的な情報を得て決める学生も多い。「学習環境が整っているから」「授業料が安いから」は、別科生に多い。

4 プログラム評価

「龍谷大学の日本語プログラムを他の学生に勧めますか」の質問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4件法で回答してもらった結果、JEPと別科それぞれで、肯定的な評価が多かった。図8は、2016年度と2017年度の前期、後期におけるJEP、別科の結果をグラフ化したものである（数値は回答数）。2017年度後期の別科生をのぞいて、実に95%以上の学生が日本語プログラムを友人知人に勧めたいと回答している。

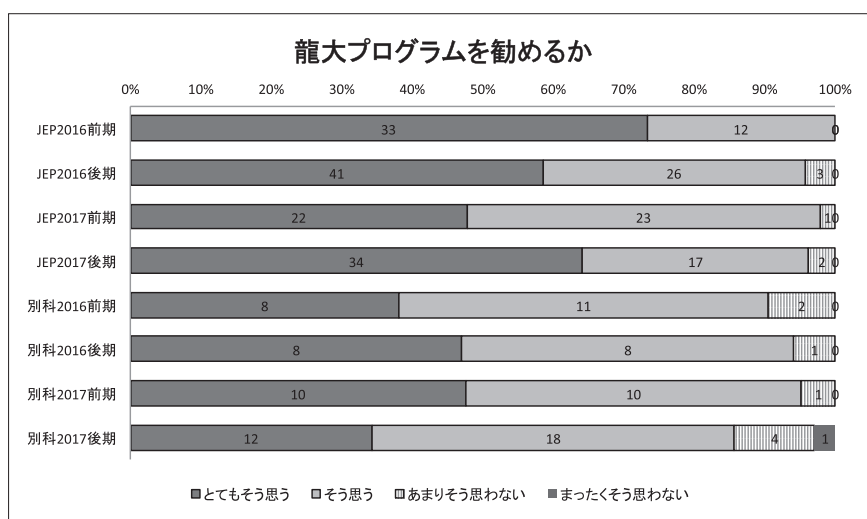


図8 日本語プログラムの評価

その理由を自由形式（任意）で得た回答のうち、代表的なものを、（1）日本語授業の種類、（2）日本語授業の内容、（3）講師陣、（4）クラスレベル、（5）クラスサイズ（規模）、（6）学習環境、及び（7）その他、のカテゴリー別にまとめた（表5参照）。

日本語授業の種類や内容に満足している声が寄せられ、JEPに関しては、「実際に使える知識やスキルを学ぶことができる」「京都で色々な体験ができる」「現実に基づいており、活動が多いから面白い」という活動中心の授業内容が高く評価されている。クラスレベルに関しても多くの学生がプレースメントテストで適正なレベルに配属されたと感じているようである。クラス規模は、クラスによっては大きすぎると答える学生もいるが、だいたい満足しているようだ。また、日本語のスキルだけでなく、日本事情科目や特別講義を通じて日本文化や日本社会への理解を深めることができる点も好評を得ている。一方、別科生は私費留学であることから、寮費や授業料の安さに言及する声があり、前項の留学先選択理由でも明らかになったとおり、学費もふくめた学習環境の良さを評価している。

表5 日本語プログラムの評価理由

(1) 日本語授業の種類	・種類が多い ・日本語だけでなく、日本文化や日本社会の特別授業もある ・前期と後期でほぼ同じなのが残念
(2) 日本語授業の内容	・「聞く、読む、話す、書く」などバランスよく学ぶことができる ・(JEP) 実際に使える知識やスキルを学ぶことができる ・(JEP) 京都で色々な体験ができる
(3) 講師陣	・優しく親切 ・丁寧に教えてくれる
(4) クラスレベル	・細かくわかれている ・自分にふさわしいクラスに在籍できた ・(クラスによっては) 学生のレベル差が大きい ・(別科) もっと細かくわけてほしい
(5) クラスサイズ	・ちょうどよいクラス人数 ・クラスによっては学生が多すぎた
(6) 学習環境	・とても良い ・図書館を利用できるのがよい ・寮(国際ハウス)から近くて便利
(7) その他	・他の国からの学生と交流できる ・日本人と交流の機会はあまりない ・(別科) 寮費も授業料も他大学より安い

Ⅳ 考察のまとめと今後の課題

まず、日本語学習動機について、交換生と別科生では主となる動機が異なり、前者は日本文化に対する興味や日本での就職、後者は大学進学となっており、本校においてそれぞれに特化した2つの日本語コースが設置されていることは、学習者のニーズを満たしているといえよう。「龍大プログラム評価」で全体的な満足度が高く、日本語授業の内容が評価されているのも、スキル別・目的別の多様なコースが用意されており留学生の要望を網羅していること、そしてコースの目標が学生にわかりやすく提示されているからではないかと推察できる。

留学生の主専攻をみると、言語・文化系だけでなく、経済、経営、理工系なども増えつつあり、こうした学生は「実際に使える日本語」「将来仕事で使える日本語」を求めている可能性がある。時代とともに学習者像が変化していることを認識し、コースを設計する必要があるといえよう。しかし、本アンケートを通じて把握できた学習ニーズは、おおまかなものであり、細かいニーズについては分かっていない。学生が本学在籍中に具体的にどのようなことを学び、どのような活動を行いたいと思っているのかについては、聞き取り調査を行うなど、より細かく聞いていく必要があるだろう。

龍谷大学を選んだ理由については、「京都にあるから」を選ぶ学生が半数を超える学期もあ

り、京都の街や文化に対する強い関心や期待がみてとれる。その意味でも、京都での体験を銘打ったJEP、“Japanese Experience Program in Kyoto”では、プログラム名を体現すべく、この地に留学しているからこそ体験できること、体験を通じて習得できることを今後とも扱っていくことが留学生の満足度を高めることにつながると考えられる。これは、プログラム評価の理由として、「実際に使える知識やスキルを学ぶことができる」「京都で色々な体験ができる」という意見が聞かれることも裏付けとなる。ただ、「体験」と言っても、寺社見学や茶道体験などいわゆる伝統文化に範囲を狭めず、学生の関心や視野を広げられるような体験を模索していく必要があるだろう。

日本語の授業を通して留学生同士の交流を深める一方、「留学中親しくなった日本人は先生とチューターだけ」という声も聞く。これは、龍大で学ぶ日本人学生にとっても大きな損失である。ただ留学生を受け入れるだけでは、日本人学生と交わらないという事実は、本プログラムに限らず、どの大学でも大きな課題となっている。JEPでは、単発的あるいは定期的に、日本人学生に授業に参加してもらい、生きた議論の機会を設けている授業もあるが、まだ少数派である。教室の敷居を低くしたプログラムを目指すと共に、留学生と日本人学生の共修を実現する環境整備に大学全体で取り組んでいくことが期待される。

龍谷大学を他の学生に勧めるかについては、JEP、別科ともに多くの学生が肯定的な評価をしており、その理由として、日本語の授業内容からクラスサイズ、そして学習環境に至るまで、満足度が高いことがわかる。一方で、学期によってはクラス内のレベル差の大きさや人数の多さが不満の声として聞かれる。学生の意思を尊重したクラス配置の結果起こる場合もあり、全ての学生の希望を叶えるのは難しいが、クラス運営を担う教員の工夫はもちろん、学生との合意形成、自己評価能力の育成など複数の側面から取り組んでいく必要があるだろう。

自己評価は、学生にとってそう簡単なことではないことがわかった。しかし、自己評価システムが目指す自律的学習や学習者主体という概念については、アニメやマンガ、カラオケで日本語を習得したり、楽しんだりしている多くの学生達には、すでに体験的に浸透しているともいえよう。むしろ、教育現場の方が遅れを取っているとさえいえるかもしれない。その意味では今後も、世界各地から集まる生きた情報として、留学生達の声から学ぶという姿勢がプログラム改善の要となりつづけるにちがいない。

本調査は、2015年度の日本語プログラム再構築を機に、プログラムの継続的改善を目的としたIRの一環であり、PDCAサイクルのC（Check: 評価）として実施してきたものである。そこで得られた結果は、A（Act: 改善）の段階に進めなければ意味をなさない。実際、学生のニーズから翌年度に開講された「ビジネス日本語」、「関西方言」などの例もあるが、当然のことながら、すぐには実現できない要望もある。学部授業を履修する学生の問題解決などはその一つである。とはいえ、まずは、調査により現状と課題点を明らかにし、関係者間で共有することがスタート地点といえよう。

本調査に関する今後の課題としては、運営的な面では、調査内容、方法を再検討すること、集計・分析の負担を軽減する工夫をすることである。一方、対象や内容の面では、これら交換生、別科生の修了生に対する追跡調査や、学部留学生、教職員、協定校日本語教員など、対象範囲を広げた調査の実施が望ましいだろう。そして、これら課題の解決のためには、中長期的な視野に立った計画が必要であり、教育改善にはIRが不可欠であるという認識を関係者間で共有することが肝要となるだろう。

参考文献

- 奥村三葉子（2017）「大学におけるCEFR実践のための教師研修の意義」『龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報』26, pp21-34
- 国際交流基金JF日本語教育スタンダード<<https://jfstandard.jp/top/ja/render.do>>（参照2018.1.5）
- 小松知子・福田えり（2016）「日本語教育レポート 第33回CEFR/JFSを参照した実践例の紹介 龍谷大学交換留学生のための日本語プログラム“JEP Kyoto”－プログラム開発と「ビジネス日本語」コースデザイン－」国際交流基金日本語教育通信
<<http://www.jpfgo.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/report/201611.html>>（参照2018.1.5）
- 小松知子他（2016）「言語教育における評価指標の開発－JEP Kyotoの開発とその検証を通して－」2015年度FD自己応募プロジェクト報告書, pp33-36
- 小松知子他（2017）「言語教育における評価指標の開発－JEP Kyotoの開発とその検証を通して－」2016年度FD自己応募プロジェクト報告書, pp33-36
- 山田礼子他（2011）「高等教育におけるIR（Institutional Research）の役割」日本私立大学協会附置私学高等教育研究所 2011.1 私学高等教育研究叢書〔2010年度〕
<https://www.shidaikyo.or.jp/riihe/book/pdf/2010_p06.pdf>（参照2018.1.5）
- 吉島茂・大橋理枝（訳・編），Council of Europe（著）（2008）『外国語教育Ⅱ－外国語の学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠－』初版第2刷，朝日出版社

資料

Webアンケート⁴ URL: <https://goo.gl/forms/CisqFzLWaQqWK0oL2>

注

- ¹ 本校受入留学生は、2017年度末現在、①学部・大学院で受入れる正規留学生や特別留学生（約300名）、②留学生別科で受入れる日本の大学等への進学を目的とする私費留学生（43名）、③学生交換協定に基づく受入交換留学生（99名）在籍し、交換生については2014年度のほぼ2倍となっている。
- ² 3回目まではQualtrics社のWebサーベイシステムを、2016年度以降はGoogle Formを利用した。
- ³ 2014年度後期と2015年度前期アンケートでは、それ以降のものとは若干意味合いが異なるものの、1位にランクづけされた選択肢を採用した。
- ⁴ 2017年後期の内容と同じものを「必須項目」を外して作成した。

日本語コース：ニーズ調査（2017 年度後期）

アンケートにご協力（きょうりょく）いただきありがとうございます。

あなたの日本語学習や日本での生活についておしえてください。

アンケートにかかる時間は 30 分程度です。

アンケートのデータは次の目的以外には使用しません。

- ・ 龍谷大学の日本語プログラム開発
- ・ 学内の勉強会
- ・ 学会発表や研究論文（ろんぶん）発表

アンケートは無記名（むきめい）です。

個人情報（こじんじょうほう）が公開（こうかい）されることはありません。

以上の内容に同意（どうい）くださる方はチェックをして、アンケートに進んでください。

☐ 同意します

pg. 2 日本語学習

Q1. あなたが日本語を勉強している理由について、もっともあてはまるものを選んでください。

- ☐ 日本語の勉強が楽しいから
- ☐ 日本の社会や文化に興味（きょうみ）があるから
- ☐ 日本の大学、大学院に進学（しんがく）したいから
- ☐ 日本人と日本語で会話したいから
- ☐ 将来（しょうらい）日本に関係（かんけい）がある仕事がしたいから
- ☐ 小説（しょうせつ）や映画（えいが）、アニメやマンガなど日本語で理解（りかい）したいから
- ☐ 日本語ができるとカッコイイと思うから
- ☐ 単位が必要だから
- ☐ 家族やまわりの人にすすめられたから
- ☐ なんとなく
- ☐ その他（ ）

Q2. 好きな授業をひとつ思い出してください。そして次のうち、あてはまるものを「とてもそう思う／そう思う／あまりそう思わない／まったくそう思わない」の中からえらんでください。

- ペアやグループなど、みんなで一緒に考えたり練習したりする活動がよくある
- 自分は、授業で習ったことをよく理解していると思う
- 自分がしたいと思っていることをする機会がある
- 習ったことを理解しているかどうか、確認する機会がある
- クラスメートといろいろな話をするができる
- 学生にはほとんど自由がないように感じる
- 授業で達成感を得られる
- 授業ではひとりひとりが孤独に勉強しているように感じる
- 学生が中心となって日本語を使ったりする活動がたくさんある
- 担当の先生は学生のことをよく考えてくれているような気がする
- 授業中、勉強させられているという感じがする
- 日本語が通じるかどうかためしてみる機会がある
- ペアやグループなど、みんなで一緒に考えたり練習したりする活動がよくある
- 自分は、授業で習ったことをよく理解していると思う
- 自分がしたいと思っていることをする機会がある
- 習ったことを理解しているかどうか、確認する機会がある
- クラスメートといろいろな話をするができる
- 学生にはほとんど自由がないように感じる
- 授業で達成感を得られる
- 授業ではひとりひとりが孤独に勉強しているように感じる
- 学生が中心となって日本語を使ったりする活動がたくさんある
- 担当の先生は学生のことをよく考えてくれているような気がする
- 授業中、勉強させられているという感じがする
- 日本語が通じるかどうかためしてみる機会がある

Q3. きらいな授業をひとつ思い出してください。そして次のうち、あてはまるものを「とても
 そう思う／そう思う／あまりそう思わない／まったくそう思わない」の中からえらんでくださ
 い。

- ペアやグループなど、みんなで一緒に考えたり練習したりする活動がよくある
- 自分は、授業で習ったことをよく理解していると思う
- 自分がしたいと思っていることをする機会がある
- 習ったことを理解しているかどうか、確認する機会がある
- クラスメートといろいろな話をするができる
- 学生にはほとんど自由がないように感じる
- 授業では達成感を得られる
- 授業では学生ひとりひとりが孤独に勉強しているように感じる
- 学生が中心となって日本語を使ったりする活動がたくさんある
- 担当の先生は学生のことをよく考えてくれているような気がする

- 授業中、勉強させられているという感じがする
- 日本語が通じるかどうかためしてみる機会がある
- ベアやグループなど、みんなで一緒に考えたり練習したりする活動がよくある
- 自分は、授業で習ったことをよく理解していると思う
- 自分がしたいと思っていることをする機会がある
- 習ったことを理解しているかどうか、確認する機会がある
- クラスメイトといろいろな話をするができる
- 学生にはほとんど自由がないように感じる
- 授業では達成感を得られる
- 授業では学生ひとりひとりが孤独に勉強しているように感じる
- 学生が中心となって日本語を使ったりする活動がたくさんある
- 担当の先生は学生のことをよく考えてくれているような気がする
- 授業中、勉強させられているという感じがする
- 日本語が通じるかどうかためしてみる機会がある

pg. 3 日本語能力

日本語：

https://jfstandard.jp/information/attachements/000119/2_self_assessment_jp.pdf

ヨーロッパ言語（31言語）：<http://www.coe.int/en/web/portfolio/self-assessment-grid>

中国語：https://drive.google.com/open?id=0B5rERvyF0-Z_ZIFkZ2p0eEV0YWM

ハンゲル：https://drive.google.com/open?id=0B5rERvyF0-Z_X3RhclVabmVYZnc

Q4. 上記のリンク（CEFR 自己評価表）をクリックして、あなたの日本語能力を確認してください。そして、「聞く」「読む」「話す（やりとりする）」「話す（表現する）」「書く」のそれぞれについて、あてはまるレベルをひとつ選んでください。

	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞く						
読む						
話す（やりとりする）						
話す（表現する）						
書く						
聞く						

Q5. 以下の場面について、日本語をどのくらい使っているかお答えください。

ほとんど日本語/日本語と他の言語 半々くらい/ほとんど日本語を使わない/やったことがない

- ネットで買い物やホテルの予約をする
- ネットで行きたい場所や行き方などを調べる
- 映画やドラマをみる
- 趣味で読書をする
- ゲームをする
- 友達とメールやLINE でやりとりする
- 日本人の友人とおしゃべりをする
- 留学生の友人とおしゃべりをする
- 病院や薬局で、病気やケガについて質問したり説明したりする
- 知らない人にバスや電車の乗り方、目的地までの行き方などを聞く
- ネットやテレビで災害情報、気象情報を確認する
- 店で買い物をする
- チューターに相談する
- R-Globe のスタッフと話す
- 授業中にクラスメートとグループワークをする
- 日本語科目以外の先生と話す
- アルバイト先で同僚や客などとやりとりをする
- ネットで買い物やホテルの予約をする
- ネットで行きたい場所や行き方などを調べる
- 映画やドラマをみる
- 趣味で読書をする
- ゲームをする
- 友達とメールやLINE でやりとりする
- 日本人の友人とおしゃべりをする
- 留学生の友人とおしゃべりをする
- 病院や薬局で、病気やケガについて質問したり説明したりする
- 知らない人にバスや電車の乗り方、目的地までの行き方などを聞く
- ネットやテレビで災害情報、気象情報を確認する
- 店で買い物をする
- チューターに相談する
- R-Globe のスタッフと話す
- 授業中にクラスメートとグループワークをする
- 日本語科目以外の先生と話す
- アルバイト先で同僚や客などとやりとりをする

06. その他、日本での生活で日本語が必要だという場面があれば、教えてください。
()

pg. 4 日本語プログラムについて

Q7. なぜ、龍谷大学を選びましたか。

- ☐ 京都にあるから
- ☐ 先輩（せんぱい）にすすめられたから
- ☐ 先生にすすめられたから
- ☐ 寮（りょう）があるから
- ☐ 学習環境（がくしゅうかんきょう）が整っているから
- ☐ 授業料が安いから
- ☐ その他（ ）

Q8. 龍谷大学のプログラムをほかの学生にすすめたいと思いますか。

- ☐ とてもそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

Q9. <Q8>で答えた理由について、次の点にそって自由にお書きください。

(1) 日本語授業の種類、(2) 日本語授業の内容、(3) 教師、(4) クラスレベル、(5) クラスの大きさ、(6) 学習環境のそれぞれについてお書きください。

Q10. 龍谷大学日本語プログラムでは自己評価チェックリスト（自分の日本語能力を自分でチェックする評価方法）を授業で取り入れています。自己評価チェックリストを使うことについて、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

とてもそう思う/そう思う/あまりそう思わない/まったくそう思わない

- 自分の日本語能力がわかるようになる
- 学習目標がよくわかる
- 学習の進み具合を意識できる
- 自己評価するのは簡単だ

Q11. 今ある授業のほかに、開講してほしい授業はありますか。

()

Q12. 学部の授業を履修（りしゅう）した方に伺います。下記の項目について、もっとも当てはまるものを選んでください。

とてもそう思う/そう思う/あまりそう思わない/まったくそう思わない

- 自分が希望した内容を学ぶことができた
- 授業内容を十分に理解することができた
- 課題（レポート、プレゼンテーション）を達成することができた
- 日本人学生と交流できた
- 履修手続きなど問題なくできた
- 自分が希望した内容を学ぶことができた
- 授業内容を十分に理解することができた
- 課題（レポート、プレゼンテーション）を達成することができた
- 日本人学生と交流できた
- 履修手続きなど問題なくできた

Q13. 学部の授業を履修した方に伺います。Q12 で答えたこと以外に、学部の授業履修に関して何かあれば自由にお書きください。

()

pg. 5 最後に

性別

- ☐ 男
☐ 女
☐

出身

()

母語

()

母語と日本語のほかにできる言語の数を教えてください

- ☐ 0
- ☐ 1
- ☐ 2
- ☐ 3
- ☐ 4
- ☐ 5つ以上

前問で1つ以上と答えた方は、できる言語を教えてください。

例： 英語、フランス語

()

これまでの日本滞在期間（たいざいきかん）は全部合わせるとどのくらいですか。

- ☐ 約半年
- ☐ 約1年
- ☐ 約1年半
- ☐ 約2年
- ☐ 約2年半
- ☐ 約3年
- ☐ 約3年半
- ☐ 4年以上

主専攻をお答えください。

- ☐ 日本語・日本文学
- ☐ 言語・文化
- ☐ アジア研究
- ☐ 歴史（れきし）
- ☐ 政治（せいじ）
- ☐ 経済（けいざい）
- ☐ 経営（けいえい）
- ☐ 社会
- ☐ 教育
- ☐ 法律（ほうりつ）
- ☐ 芸術（げいじゅつ）
- ☐ 理工学（りこうがく）
- ☐ その他：

現在（今学期）受けているクラスを選んでください。

- ☐ JEP2
- ☐ JEP3
- ☐ JEP4A
- ☐ JEP4B
- ☐ JEP5
- ☐ JEP6
- ☐ 別科 3
- ☐ 別科 4
- ☐ 別科 5

先学期（2017 年度 前期）も龍谷大学で日本語プログラムを受けましたか。

- ☐ はい
- ☐ いいえ

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。